県立広島大学 Prefectural University of Hiroshima

地域連携センター報

Vol.11

COMMUNITY LIAISON CENTER

平成22年10月10日発行

県立広島大学地域連携センター
〒734-8558 広島県広島市南区宇品東一丁目1番71号 電話082-251-9534 E-mail:renkei@pu-hiroshima.ac.jp

広島県看護教員養成講習会 開講式

本学では，広島県から委託され，平成20年度から「看護教員養成講習会」を実施しています。この講習会は，厚生労働省管轄の看護専門学校における専任教員の養成を目的としています。今年度は5月6日に開講式を挙行し，本学の田丸政男保健福祉学部長の挨拶，広島県の津山順子保健医療部長からの祝辞などがありました。受講生は，20歳代から50歳代までの36名で，12月まで8か月間学修します。

講習会の教育内容は，基礎分野・教育分野・専門分野の3分野から構成されています。基礎分野では「看護教員としての必要な基礎知識を学ぶ」ため，哲学や情報科学等を学修します。教育分野では「教育の原理を系統的に学ぶ」ため，教育原理や教育心理学等を学修します。専門分野では「看護学の教授，学習活動に関する理論を学ぶ」ため，看護教育制度や看護教育課程の基本・教育方法を具体的に学修し，また実践する力量を形成するため，演習や教育実習等があります。受講生の看護教員経験状況は，1年から数年が約4割であり，残りの約6割は4月まで病棟で看護師として勤務していました。この講習会では，「看護理論」の講義から始まり，それと併行して進める「看護論演習」で担当した患者さんへの看護を通して自分自身の看護観を振り返り，新たに構築していきます。その後，授業方法や実習指導方法を学修し，看護教育課程の基本的考え方を学び，看護教育の全般を概観できるようになります。講習会修了後には，学生が対象に応じた看護支援ができるよう，教員としての基礎的知識を教授するとともに，“自分らしい教員像”の基盤を創ることなど，講習会の環境づくりも考慮しながら運営しています。

開講式の受講生の様子

田丸保健福祉学部長の挨拶

県立広島大学地域連携センターの活動等については，本学ホームページにも掲載していますのでご覧ください。 ▶ http://www.pu-hiroshima.ac.jp/renkei/index.html

庄原キャンパス

SHOBARA CAMPUS

地域連携

庄原地域連携センター

平成21・22年度の事業内容を紹介します。

1　三次市と包括協定を締結しました。
2　協働プロジェクト事業を，庄原市，安芸高田市，世羅町，三次市と提携し実施しています。
3　広島みどり信用金庫との提携では，「若手経営者の会」への活動協力や講座協力をしています。
4　しょうばら産学官連携推進機構と三次イノベーション会議では，企業マッチング・受託研究サポート・研究紹介・セミナー等を実施しています。
5　HICより受託したJICA研修プログラムでは，中小企業・地域活性化を目的として取り組んでいます。小学校国際交流活動支援では，講師派遣を実施しています。
6　両年度とも８件の生涯学習事業を実施しています。
7　本年度は８件の地域貢献研究活動が進行中です。

産学官連携

平成22年度しょうばら産学官連携推進機構総会

6月15日に庄原市で開催されました。本学との連携事業は昨年度18件でした。他に，教員からの情報提供の依頼，地域からの学生派遣の依頼，研究会やセミナーなどの連携がありました。

今年度は，マッチング事業，プロジェクト事業，講演・講習事業，ソフト事業を予定しています。特に，マッチング事業では，本学における技術シーズと産業界などからのニーズを仲介することによる新規のマッチングを期待しています。

公開講座

「庄原の地域資源を活用して」

庄原市教育委員会との共催で，本学にて毎年2回開催しています。６月25日から７月22日の間に延べ117名の受講者を集めて前期の講座を実施しました。

今年度は，庄原市の地域資源を活用した商品や開発中のもので，本学の教員による成果を中心にして講義しました。なお，後期は10月以降に開催します。

第１回　武藤徳男教授
地域資源を活かした機能性食品の開発：ものづくりと事業化への連携

第２回　相沢慎一教授
庄原のキノコと日本各地のキノコ

第３回　吉野智之准教授
「しょうばらいろ　むらさきのゆめ」へのおもい

第４回　江頭直義教授
タルクを利用した廃水処理装置の開発

第５回　村田和賀代准教授
地域資源の利用と課題
～どんぐりコロコロ豚を通じて～

地域連携　どんぐりコロコロ豚（とん）

本キャンパスから産まれた商品

どんぐりは，森の動物の秋の御馳走です。豊富に含まれるオレイン酸は，脂身をすっきりと甘くします。世界最高と言われる「イベリコ豚」もどんぐりを主食として放牧されています。

庄原市ではどんぐりが豊富に取れます。そこで，庄原市内の養豚振興のために，村田和賀代生命環境学部准教授が庄原商工会議所と共にこの商品を開発しました。庄原産どんぐりを混ぜた餌で育った豚の肉は，さっぱりと美味しくいただけます。

大量のどんぐりを集めることは，労苦の多い人手のかかる作業でしたが，幸いにして地元の方たちの熱心な協力により，十分な量のどんぐりを集めることができました。どんぐりの季節に合わせた生産のため，秋から冬の限定販売ですが，昨年１２月から今年６月まで，「食彩館ゆめさくら」で試験販売され，とても好評でした。

国際交流

JICA集団研修「食品加工・保全技術」コース

昨年度の１月26日～２月３日に庄原キャンパスで，森永 力教授と武藤徳男教授を講師として実施されました。研修生は，フィリピン，中国，カンボジア，ミャンマーからの５名でした。食品加工・保全技術に関する日本の実状を講義や視察で理解し，基礎的知識と研究手法を実習で習得しました。

実習中の本学学生との交流もあり，「充実した研修であった」と研修生から高評価でした。

研修生と本学スタッフ

JICA集団研修「南東欧地域産業振興」コース

標記の研修が，６，７月に実施されました。研修生は，アルバニア３名，ウクライナ１名，モンテネグロ１名の合計５名でした。

国や県の地域振興政策，産学官連携，６次産業，民間企業によるインキュベーターなどの理論と実践例を学び，現地調査も実施しました。

赤岡 功学長への表敬訪問

産学官連携

第7回三次イノベーション会議総会

６月28日，みよしまちづくりセンターに約25名が集まり，開催されました。平成21年度の事業報告と決算，平成22年度の事業計画と予算および役員の改選案が承認されました。また，三次地域の資源活用構想について議論されました。

研究紹介

安全な水

生命環境学部環境科学科 准教授　橋　本　　温

よく「水と安全はタダ」という言葉を耳にします。わが国では，水を飲んでおなかを壊すということはほとんどありません。それは，水の微生物学的な安全性が極めて高いためで，水処理工程や最終製品（水道水や飲料）では，有害な微生物の不活化・除去や検査が徹底されています。水源や排水処理でも，同様な評価や処理が行われています。これらが着実に実施されているからこそ「水と安全はタダ」のような恵まれた環境が維持されているのです。

私は，タダである「水の微生物学的な安全性」を確保・維持していくための，効果的な微生物検出法や不活化法を研究しています。具体的には，塩素消毒に耐性を有する原虫や腸管系ウイルスなどの，分子生物学的な手法による検査法の開発やUVなどの新しい不活化技術の評価などを行っています。

また，途上国に目を移せば，水の安全性は極めて重要な問題です。これらの国でも容易に導入できるような水処理技術の開発も研究しています。

地域連携　赤い宝石　いちごジャム

本キャンパスから産まれた商品

いちごは温暖な地方の果物というイメージがありますが，意外なことに庄原市は全国有数の「夏いちご」の産地です。緑の畑に点々と実るいちごは赤い宝石のようです。一方，武藤徳男生命環境学部教授は「安定型ビタミンＣ誘導体」を開発しました。ビタミンＣは，免疫力を高め，コラーゲンの生成を促す作用を持っています。そこで，しょうばら産学官連携推進機構との連携により，製造加工も含めて全て市内生産にこだわった，他地域にはない本商品が誕生しました。

庄原産の「夏いちご」の粒をそのまま残した美味しさの上に，スプーン一杯強でビタミンＣの１日所要量が摂取できる健康と美容に優れたジャムです。備北丘陵公園内の売店，食彩館ゆめさくら，庄原産直市八木店などで販売され，好評を博しています。

三原キャンパス

MIHARA CAMPUS

地域連携

三原地域連携推進協議会総会

三原地域における大学と地域との交流及び産学官連携を推進し，地域の発展に寄与することを目的に設立された三原地域連携推進協議会の総会が５月６日，三原国際ホテルで開催されました。五藤康之三原市長が議長を務め，規約の変更，平成21年度事業報告及び決算報告，平成22年度事業計画及び予算について審議がなされました。協議会の実務作業を行う地域交流部会と産学官連携部会における各種の事業について詳細な説明があり，５つの議案すべてが承認されました。総会に続いて，産学官交流セミナー及び交流会が行われました。セミナーでは，平田努産学官連携コーディネーターから「産学技術交流事業について」と題して，産学技術交流相談室の概要と実績，企業訪問による技術開発相談事例，外部研究開発資金・補助金の申請事例の紹介，また期待される商品開発動向について講演がありました。

◆今後の講座等のご案内◆

●広島保健福祉学会第11回学術大会
「地域包括ケア体制の構築をめざして
～医療と介護の連携とその仕組みづくり～」
［日時］平成22年10月23日（土）10：00～16：30
［場所］県立広島大学三原キャンパス
１号館１階 大講義室

●第8回脳をみるシンポジウム in 三原
「自律神経 ～生命の根源～」
［日時］平成23年３月５日（土）13：30～16：30
［場所］三原リージョンプラザ
（広島県三原市円一町2-1-1）

協働事業

地域の障がい者家族の余暇支援を目的としたビーチバレーボール・食事交流会活動

保健福祉学部では，人間福祉学科の学生を中心に，障がい者の父親の会と連携し，三原市内の障がい者家族の余暇支援を目的としたビーチバレーボール・食事交流会（カレー調理）のボランティア活動を平成19年から毎年実践しています。この活動を始めた当初，参加者は20名程度でしたが，今年の５月は，家族と関係者を含めて110名，学生80名が参加し，交流会が盛大に行われました。体育館では，学生と障がい者が一緒にビーチバレーボールを追いかけ，調理実習室ではじゃがいもや人参を切り，カレーの調理に励んでいました。ビーチバレーボール終了後，参加者は食堂でカレーを楽しく食べました。

わずかな交流の時間でしたが，障がい者は若い学生との交流，学生は障がい者家族と知り合いになれたこと，障がい者の保護者は障がい者家族同士や若い学生との交流ができたことを喜んでいました。そして，学生も障がい者家族も，今後もこの交流会活動を継続して欲しいという希望を述べていました。今年度は，三原市の福祉関係者もボランティアとして参加し，この交流会活動が大学，障がい者家族，行政が一体となって，三原市の障がい者福祉の街づくりを考えていくきっかけになったのではと思われます。

公開講座

三原シティカレッジ　市民講座
―歳を重ねたからこそできること―

昨年度の１月24日・２月14日・３月７日の３日間，ペアシティ三原西館２階で，55歳以上の方を対象に，標記のテーマで講座を開催しました。本講座では，受講者の方と一緒にこれまでの生活を振り返りながら，生活を充実させる方法や生活のバランスを整える方法，これまでの経験をいかす方法を考えました。講師による生活や健康についての講義とグループでの受講者同士の意見交換を行いながら，受講者一人一人がこれまでの経験をいかし充実した生活を送るために取り組めそうな工夫を見つけていきました。

延べ55名の受講者があり，受講後のアンケートでは受講者の96％が講座内容に「満足」と回答しました。受講者からは「他の受講者の経験が聞けて勉強になった」「回を重ねるごとに仲間意識ができて，楽しかった」「前向きに今後の人生を生きていくうえで参考になった」「講座で学んだことを今後の地域活動にいかしたい」という感想がありました。

また本講座を受けて，「家事のやり方を工夫するようになり気持ちが楽になった」「毎日体操をしながら，近所の人に声をかけて知り合いを増やすようになった」「自分を高める意識を持って，他者の喜ぶ顔を想像しながら作業をするようになった」といった実際の生活の変化を経験した方もいました。受講者の中には，この講座をきっかけに実際にボランティア活動や地域貢献活動を始めた方もいます。

今年度も１月９日・23日・２月６日に標記のテーマで講座を開催します。奮ってご参加ください。

研究紹介

言語障害のリハビリと研究に取り組んで40年

保健福祉学部コミュニケーション障害学科 教授　武内和弘

学生時代は言語学科に籍を置き，韓国語を分析して，卒論にした。現在の韓流ブームの先駆けと言えないであろうか。卒業後は，社会福祉法人・旭川児童院に就職し，「言語訓練士」として重症心身障害児の言語訓練に取り組んだ。当時はカナタイプライターくらいしかなく，それを用いて障害児詩集を作成したりしていた。現在のIT機器による会話支援装置などは，夢のまた夢であった。

児童院に４年間勤めた後，広島大学歯学部附属病院に移り，言語治療室を立ち上げた。口腔外科で口蓋裂の閉鎖手術をした後の構音障害のスピーチ・セラピーを担当した。同時にJR広島鉄道病院で週２回，失語症患者の言語指導を行い，患者の交流団体である「広島県言語友の会」の創立にも関わったが，子どもの構音障害のスピーチ・セラピーは，今日まで継続している。

いわゆる口蓋裂児は，鼻咽腔閉鎖機能不全による開鼻声が問題となる。鼻声の評価の必要に迫られて「日本語鼻音性検査」を試作し公表した。またITPA言語学習能力診断検査でみると，構音障害児は，視覚－運動回路に比べて聴覚－音声回路の能力の低い子どもの多いことに気づき，調査して日本口腔外科学会や日本コミュニケーション障害学会などで発表した。

また，広島にいるので，被爆の影響により口蓋裂児の出生率が高くなっていないか県下の産科医院の協力を得て調べたこともあるが，全国平均とほぼ同様で，なんとなく安心したこともある。

臨床音声学を講義しているので，ザ行音が破擦音dz で調音されているか摩擦音ｚで調音されているかを卒業研究で取り上げて調べ，従来の「語頭と撥音「ん」の後では破擦音dz，語中では摩擦音ｚになりやすい」という見解にほぼ一致する結果を得たが，予想外に個人差の大きいことに驚いたこともある。

三原シティカレッジの内容については下記のホームページをご覧ください。

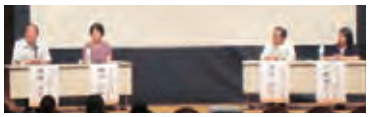
http://www.mhr-cci.org/renkei/

広島キャンパス HIROSHIMA CAMPUS

協働事業

平成22年度地域戦略協働プロジェクト事業
＜廿日市市＞

平成21年度末に「廿日市市の旬と地産地食」を刊行しました。今年度はその冊子を活用した事業を展開しています。８月26日に開催したシンポジウムは加藤秀夫教授による基調講演ののち，パネルディスカッションを行いました。市内各地域の食育，ウォーキング等の取組みの紹介につづいて，総合討論では学生の参加者から活発な意見が出ました。



＜江田島市＞

沖美地域での調査風景

江田島市「健康・長寿のまちづくり」をテーマに昨年度から協働事業を行っています。今年度は沖美地域をターゲット地域として健診会場でのアンケート調査を７月20日～22日に行いました。結果を集計した後，脂質異常症のタイプ別に介入指導を行います。今回は健康科学科教員・学生延べ約60名が参加しました。また，10月24日（日）には健康まつりを開催する予定です。

産学連携

＜広島信用金庫＞

取材先での一コマ

ひろしん事業応援サイト「B-ネット」（中小企業向けビジネス関連情報発信の場）のアグリブログに本学の学生６名が取材記事を書いています。農業に関する情報を県内の大学生がレポートするものです。６月10日には広島テレビからその模様の取材をうけました。６月から10月の間に９回のブログ記事を発信します。

＜呉信用金庫＞

9月2日に産学連携講座「顧客満足を目指すサービスを考える」（松尾智晶准教授）を開催しました。お客様に喜ばれるために今日からできることをイメージするワークショップもあり，参加者は改めてサービスについて考える時間を持ちました。

公開講座

「庭の文化誌」

６月の毎週土曜日，「庭」をテーマとした全８回の講座を開講し，延べ433名の方が受講されました。文学，歴史，芸術の分野から多角的に考える「文化誌」シリーズは今年で４回目を迎えました。毎回，美術館や博物館からも講師を招き，満足度の高い講座となっています。

「今日の東アジア」

６月から７月にかけて，平日夜間に５回の講座を開講しました。東アジアをテーマとした講座は３年目となります。今年度は現代社会に焦点をあてたもので，質疑応答も活発でした。「来年もまた来ます」という期待の声もありました。

「化学のメガネで生活をみる」

７月の平日夜間，４回にわたり，人体や身の回りの物質を「化学」の視点から考える講座を開講しました。「生活や体の中も，化学の目で見るとおもしろいものだと感じた」「生活に密着したテーマでよかった」など，受講者の感想がありました。

「夏休み理科教室」

７月28日・８月３日・８月５日の３回にわたり，小学校３年生から６年生を対象とした理科教室を開催しました。顕微鏡による虫や植物の観察，クロマトグラフィーによる色素の分析，紫キャベツから抽出した液による実験をテーマとした教室で，子どもたちは熱心に取り組みました。

「伸ちゃんのさんりんしゃ」

７月30日，はつかいち文化ホールさくらぴあで平和を考えるひとり語り「伸ちゃんのさんりんしゃ」を上演しました。「はつかいち平和の祭典」の一環として廿日市市教育委員会との共催によるもので，多くの方々の参加がありました。

「母と子のための小さなコンサート」

７月31日，広島キャンパス図書館のホールで，シューマン「子どもの情景」，ドビュッシー「子どもの領分」のコンサートを開催しました。

研　究　紹　介

英語文学作品と英語教育

人間文化学部国際文化学科　准教授　西　原　貴　之

現在の英語教育では，コミュニケーション能力が非常に重視されています。その結果，英語文学作品は，英語教育でほとんど用いられなくなりました。しかしながら，英語文学作品は英語の学習にどのように関わるのか，その効果や役割についてはほとんど研究されてきていません。

私が大学生のとき，ある先生は「英語文学は最良の英語教材だ」と言い，またある先生は「英語文学は英語学習には役に立たない」と言っていました。私は，一体どちらが本当なのか興味を持ち，英語文学教材と英語教育の関係について研究を始めました。現在は，日本人英語学習者はどのように英語文学作品を読解処理し，それがどのように英語学習に関係するのか，ということを中心に研究しています。まだ道のりは長いですが、研究成果は随時英語教育に還元していきたいと思います。

現在担当している英語の授業では，英語説明文に加えて，英語文学作品を教材として用い，それぞれのジャンルの読み方を学生に意識させながら，英語力はもとより英文読解能力の向上に努めています。英語説明文と英語文学作品それぞれの特色を活かして，両者を効果的に組み合わせながら，感性豊かな言語感覚と創造性に富んだ英語コミュニケーション能力を本学の学生に育んでいきたいと思います。

新ビジネス・モデルに関する研究

経営情報学部経営学科　教授　姜　　判　国

本研究室では経済環境の変化に伴って進化する経営パラダイムを考察し，「新ビジネス・モデル（ビジネスの仕組み）」とは何かを探索・考察しています。国内外の企業の事例研究を通じて，その企業を支える革新的なビジネス・モデルの理論的な究明に取り組んでいます。

最近，関心を持っている研究テーマは，「地域社会活性化と社会的企業研究」です。グローバル化と情報化の進展で多角化された現代社会において，政府や地方自治体などの公的機関だけではカバーできない多様な社会的諸問題が現れ始めました。このような問題解決にあたって，政府・民間企業に続く第３の社会セクターとしての役割を果たしているのがNPOです。

しかし，NPO活動は一方で政府や地方自治体の助成金，ボランティアや補助金に依存し，持続性が欠如するという問題点が指摘されています。このような社会的課題に対して，ビジネスとして問題解決に取り組む「社会的企業」や「社会的起業家」が出現し，関心が高まっています。

Newsweek誌で以前紹介された，貧困撲滅から環境保護まで社会貢献をしながら収益を出す新世代のビジネスリーダーや，彼らを支援する大企業や財団，起業家育成の教育プログラムを運営する世界的名門大学なども研究対象です。

平成17年に韓国から広島に来て以来，地域社会の活性化に貢献できる21世紀型ビジネス・モデルは何なのか，学生とともに研究を続けています。

社団法人宮島観光協会と連携・協力協定を締結

6月18日，本学と社団法人宮島観光協会の間で連携・協力協定を締結し，厳島神社祓殿（はらいでん）において調印式を行いました。

この協定により，宮島学センターを中心とした歴史・文化に関わる研究成果の提供とともに，両者による新たな観光情報の発信，観光催事等の企画・運営など，連携・協力を進めていきます。

中村靖富満会長と赤岡功学長

◆11月以降の公開講座◆

- ジェイン・オースティンの小説を楽しむ
  11月10日・17日・24日・12月1日・8日
  10：40～12：10
- 表計算ソフトを使ってオリジナル家計簿を作ろう！（基本編・機能拡張編）
  11月13日・14日　10：30～14：30
- 大人のためのピアノコンサート
  11月27日　11：00～12：00

県立広島大学 協定先一覧

県立広島大学は，開かれた大学として地域の活性化に積極的に貢献していくため，産学官の間で包括的連携・協力協定を締結しています。現在，17の協定先があります。

No.	締結日	締結先	内容
1	2005年10月31日	(株)広島銀行	地域経済の活性化，ベンチャー・ビジネスの支援，中小企業の新規事業展開・技術相談・共同研究に関すること等
2	2006年3月29日	庄原市	地域のまちづくり・人づくり，産業の振興，経済の発展，保健福祉向上，生涯学習・環境政策の推進に関すること等
3	2006年4月7日	三原市	地域経済の発展，保健・医療・福祉の向上，住民と行政の協働の推進，教育・文化・生涯学習の推進，環境の保全等
4	2006年5月19日	広島信用金庫	地域経済・地域企業の活性化，中小企業の新規事業創出支援，技術相談・共同研究等に関すること等
5	2006年7月13日	しまなみ信用金庫	地域経済・地域企業の活性化，中小企業の創業支援・第二創業支援，技術相談・共同研究に関すること等
6	2006年10月13日	広島県商工会連合会	地域経済・地域企業の活性化，中小企業等の新規事業創出支援，技術相談・共同研究等に関すること等
7	2006年11月10日	廿日市市	コミュニティ・観光・産業の振興，地域経済の発展，保健福祉の向上，教育・文化・生涯学習の推進，環境政策の推進
8	2007年1月16日	安芸高田市	協働のまちづくり推進，保健・医療・福祉の向上，教育・文化・生涯学習の推進，地域経済の発展，環境の保全等
9	2007年5月24日	呉信用金庫	地域経済・地域企業の活性化，中小企業の新規事業創出支援，技術および経営管理の相談，共同研究に関すること等
10	2007年10月16日	(社)青少年育成広島県民会議	青少年育成指導者の人材育成，青少年育成の諸課題の調査・研究，学生ボランティアや青少年育成県民運動の促進
11	2007年11月22日	国民生活金融公庫	研究成果のマッチング，技術相談，地域中小企業の技術ニーズの情報提供，産学連携の協力推進に関すること等
12	2007年12月3日	世羅町	健康・福祉および教育・文化のまちづくり，農林業・商工業・観光の振興，住民と行政の協働のまちづくりの推進等
13	2008年12月9日	広島みどり信用金庫	地域経済・地域企業の活性化，中小企業等の新規事業創出支援，技術相談・共同研究等に関すること等
14	2009年2月10日	尾道市	産業が育つ感性豊かなまちづくり，市民と市の協働，子育て支援・福祉の向上，県立広島大学と尾道大学間の協力等
15	2009年3月25日	江田島市	交流と定住のまちづくり，学びと子育ての充実，健康・長寿とふれあいのまちづくりに関すること等
16	2009年5月18日	三次市	環境保全・資源循環分野での共同研究，さと山再生，人材育成，地域づくり・産業振興，地域福祉に関すること等
17	2010年6月18日	(社)宮島観光協会	新たな観光情報，歴史・文化に関わる研究成果の発信，観光催事等の企画・運営に関する連携・協力

編集後記

センター報第11号をお届けします。本号では，本学で3回目となる広島県看護教員養成講習会をはじめ，各キャンパスの公開講座・連携事業・研究紹介等に関する記事を掲載しております。

平成17年4月に地域連携センターが誕生して以来，様々な連携事業を行ってきました。今後も地域の発展に努めていけるよう様々な事業に取り組んでいきますので，引き続きご支援とご協力をお願いします。(S)

編集発行

県立広島大学地域連携センター
〒734-8558 広島県広島市南区宇品東一丁目1番71号
電話(082)251-9534／E-mail：renkei@pu-hiroshima.ac.jp

各キャンパス問合せ先

県立広島大学庄原地域連携センター
〒727-0023 広島県庄原市七塚町562番地
電話(0824)74-1704／E-mail：gakujutu@pu-hiroshima.ac.jp

県立広島大学三原地域連携センター [本号編集担当]
〒723-0053 広島県三原市学園町1番1号
電話(0848)60-1200／E-mail：mrenkei@pu-hiroshima.ac.jp

【お見舞い】今夏の集中豪雨で協定自治体にも多大の被害が生じました。ここに記して，被災された方々に心よりお見舞い申し上げるとともに，早期の復興を願っております。(地域連携センター長　中谷　隆)